

通信コーナー

2018.06.01

梅雨お見舞い申し上げます。先月の気候は平年と同じように寒暖差の大きな天候でした。真夏日があり、また冬に逆戻りになったかと感じさせる気温で、高低差は非常に激しいものでありました。身体の方がついていけなくて、体調を崩しますので、ご自愛ください。

国会の方？政治は「モリ・カケ」だけでなく色んなことが出てきております。米朝首脳会談がどうなるのか？一度は中止だとトランプが言った。この動きに一ヶ国のみが賛成。ところが翌日には開催の方向で進んでいるとか？外交もいつどうなるかわかりません。これが国際政治なのでしょうかね。食わせ者ばかりなので一筋縄では進まないことでしょう。イタリアのトップが決まらないのでEUに為替の不安が広がり、株価も下げましたが、元の価格に戻っています。

政府が6月中旬に閣議決定する経済財政運営の方針（骨太の方針）の原案が28日、明らかになった。纏めると（1）消費税は、予定通り2019年10月に10%に引き上げる。（2）19年度と20年度予算で税率引き上げによる需要変動の平準化に万全を期す。（3）PB黒字化達成を25年度に先送りする。（4）21年度時点での中間検証では、いずれも対GDP比で、1.PB赤字を1.5%程度に抑える。2.財政赤字を3%以下に抑える。3.債務残高を180%台に抑える。（5）財政抑制策は盛り込まない。同記事には、「政府・与党内の積極財政派に配慮した成長重視の姿勢がうかがえる」とありますが、これはかなり当たっています。というのは、（3）と（5）にその形跡が見られるからです。されど、デフレ脱却策としては不十分です。デフレ期に増税をするなんて誰が考えるのか？「財政破綻の危機」という嘘八百で、消費税増税とPB黒字化に象徴される財務省の緊縮路線が絶対正しいと思いついでいるのが問題です。また、骨太の方針での外国人受け入れ政策は、治安面などへの配慮から高度な専門知識を持つ外国人に限定してきたが、実質的な単純労働分野の受け入れは制限していた。2019年4月以降に技能実習の修了者は最長5年の就労資格を得られるようにする。さらに門戸を広げ、2025年ごろまでに人手不足に悩む建設・農業などの5分野で50万人超の就業を想定する。移民政策とは異なるが、政府の外国人受け入れ政策の大きな転換となる可能性がある。周りは外国人だらけの世がやって来る？

事業承継税制が大きく改正され、一定の要件のもと贈与税・相続税の納税が猶予及び免除されます。2018年から1月1日から2027年12月31日までの10年間の時限立法です。そして、特例承継計画を都道府県知事に2023年3月31日までに提出しなければなりません。詳しいパンフレットもありますので、事務所までご請求ください。米朝会談がどうなるか？世界は大きく変動しています。先行き不透明な次の時代のために、儲けを残しておいてくださいね。